

『平成27年度ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業』活動報告書

【ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業】

俵山の自然と人々とふれ合おう「民泊に行こう」

山口県長門市立深川小学校

学校の概要

① 学校の規模

- 学級数 20学級
(内特別支援学級2学級)
- 生徒数：537人
- 教職員数：33名
- 活動の対象学年：5年生101人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 長門市の中心となる地域であり、校区には、市役所、公民館、消防署などの公共施設も多く、大きなショッピングセンターもある。
- コミュニティスクールとして、地域との交流を盛んに行い、結び付きを深めている。
- 大自然に恵まれ、市内には5つの温泉郷もある。また、伝統的な行事も各地域で行われている。
- スポーツ少年団やスポーツ関係団体の活動が盛んであり、所属する児童が多い。

3 連絡先

- 〒759-4101
山口県長門市東深川2688番地1
- 電話：0837-22-2426
- FAX：0837-22-2427
- 電子メール fukasyou@hot-cha.tv

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 俵山の自然や人々との交流を通して、ふるさと長門を愛する心を育む。
- 民泊を通して人とのつながりの大切さやふれあいの温かさを感じ取る。
- 民泊担当の方と一緒に食事づくりや掃除などの手伝いを通して、礼儀作法を身に付ける。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 入村式（学級活動2/3単位時間）
- 竹細工作り【体験プログラム①その1】
(図画工作 1 1/3単位時間)
- 長縄跳び【体験プログラム①その2】
(体育 2単位時間)
- ドミノ倒し【体験プログラム②】
(学級活動 1 2/3単位時間)
- 対面式（学級活動 1/3単位時間）
- そば打ち体験、押し寿司作り、パン作り【体験プログラム③】
(家庭科 4単位時間)
- 農業体験【体験プログラム④】
(総合的な学習の時間 1 2/3)
- 退村式（学級活動 1/3単位時間）
- 宿泊先 山口県長門市俵山地区の民家
(27家庭 1泊)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ① 俵山の自然や人々との交流を通して、ふるさと長門のよさを改めて感じ取らせ、ふるさと長門を愛する心を育ませる。
- ② 働くことの意義やすばらしさに気付かせるとともに、民泊を通して人とのつながりの大

切さやふれあいの温かさを感じ取らせる。

- ③ 民泊担当の方と一緒に規則正しい生活を過ごし、食事づくりや掃除などの手伝いを通して礼儀作法を身に付けさせる。

○ 全体の指導計画 (全30時間)

活動時期	学習活動	教科	単位時間
5月中旬 ～7月初旬	『事前学習』 ・ 俵山について調べよう。 ・ 調べたことを発表しよう。 ・ NPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」の活動について調べよう。 ・ 民泊の様子について知ろう。 ・ マイ体験活動を計画しよう。 ・ 「ゆうゆうグリーン俵山」の西本さんから学ぼう。 ・ 民泊のめあてを決めよう	総合的な 学習の時間	10時間
9月下旬	『民泊についての活動計画』 ・ 日程の確認 ・ 班編成 ・ 役割の決定 ・ しおりの作成 ・ 班会議 ・ 目標の設定	総合的な 学習の時間	4時間
10月1日(木) ～ 10月2日(金)	『俵山の自然と人々にふれ合おう』～民泊に行こう～ ① 入村式 ② 竹細工作り ③ 長縄跳び ④ ドミノ倒し ⑤ 対面式 ⑥ そば打ち体験、押し寿司作り、パン作り ⑦ 農業体験 ⑧ 退村式	学級活動 図画工作 体育 学級活動 学級活動 家庭科 総合的な 学習の時間 学級活動	合計12時間 2/3単位時間 1 1/3単位時間 2単位時間 1 2/3時間 1/3単位時間 4単位時間 1 2/3単位時間 1/3単位時間
10月中旬	『事後学習』 ・ お世話になった方々にお礼のお手紙を書こう。 ・ 振り返りをしよう。 ・ 今後に活かせることを考えよう。	総合的な 学習の時間	4時間

2 活動の実際

○ 事前指導

① 深川小5年生の総合的な学習の時間のテーマ「人とのふれ合い」との関わり

問題解決的な学習を仕組むために、体験活動を行う「俵山」に焦点をあてて調べ学習を行った。さらに、俵山の地域を調べることを通して民泊をお世話しているNPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」の存在を知り、その活動内容に興味をもっていくようにした。「マイ体験活動を計画しよう」の学習では、もし、自分が活動を組み立てるならどうするかを考えさせることにより、活動内容について理解を深めイメージできたようだった。また、「ゆうゆうグリーン俵山」運



「ゆうゆうグリーン俵山」の西本さんとの出会い

営を中心となって行っている西本さんをゲストティーチャーに招き、実際にふるさと俵山への思いや生き方を学ぶ時間を確保した。過疎化が進んでいる俵山の地域を活性化しようとする人々の願いを実際に聞くことができる貴重な時間となった。

② 班編成について

体験活動の班は、基本は学習班で行った。リーダーも体験ごとに交代し、誰もが責任をもって取り組むことができるように配慮した。民泊の班は、受け入れ家庭の状況や児童の人間関係を考慮し、教師が行い、新たな関わりができるように工夫した。

③ めあての設定について

活動のねらいを受けて、3つのキーワードを児童とともに設定し、各体験活動において、自己の目標を決めて、その都度振り返りを行った。しおりにめあてと振り返りを書く欄を設け、達成できたかどうかチェックできるようにした。

(人との関わり)・・・俵山の地域の方々、深川小の友だちに温かな声をかけ合いふれ合う。
(働くことの意味)・・・自ら進んで何をすべきか考え、人のために役に立つように活動する。

(ふるさとへの思い)・・・俵山の地域から学んだことをふるさと深川への思いにつなぐ。





④ 自己紹介カードの作成

自分の好きなことやがんばっていること、伝えたいことをカードに書いて民泊先の家族に送る活動を行い、関わりを深めるようにした。また、保護者にも、児童カードを作成していただき、アレルギーや薬の服用など気になることを書いていただき民泊先に渡すことができた。事前にカードでお知らせすることにより、児童や保護者は安心して民泊に向かうことができた。

⑤ 学年集会で全員が共通理解をする。

100名もの児童が俵山で活動するために、学年集会でルールやマナーの徹底を行った。基本的なあいさつや生活のマナー、温泉の入り方などを細かに指導した。

○ 活動の展開（プログラム）

時間	10月1日（木）雨天のため予定変更	10月2日（金）
	出発式	6:00 起床 7:00 食事
8:40	8:40 にサブグラウンド集合	8:00 旅館より中学校体育館前へ移動
9:00	学校出発	8:30 午前の部 オリエンテーション
9:30	入村式（俵山中体育館）	9:00 【体験プログラム③】
10:00	【体験プログラム①】竹細工と長縄	押し寿司、パン作り、そば打ち
		
		パン作りの様子
12:00	竹細工で風車作り 昼食	12:00 昼食
	学級対抗長縄跳び	みんなで作ったそば、押し寿司を食べる。
13:00	【体験プログラム②】ドミノ倒し	
		13:00 【体験プログラム④】農業体験
		
	みんなで協力してドミノを立てる様子	
16:00	対面式(中学校体育館前駐車場)	農業体験の様子
17:00	民泊先へ移動	
		
17:30	1日の振り返りを書く。 インタビュー活動も行う。	ゆずさち農家へ
		川遊びの様子
		15:30 退村式
21:30	就寝	16:00 俵山出発
	ホームステイ先の様子	16:20 学校着 解散式

○ 事後指導

① 感謝の気持ちを手紙で表す

お世話になった「ゆうゆうグリーン俵山」の方々と民泊先の方々にお礼のお手紙を書き、感謝の気持ちを表すようにした。また、手紙の内容も体験活動や民泊先で学んだことを3つのキーワードをもとに（人との関わり、働くことの意義、ふるさとへの思い）書くように指導し、評価した。

② 学んだことを振り返る

振り返りカードや写真をもとに各体験活動を振り返り活動を行った。しおりに書いたためでは達成できたかなどを話し合うことで、自分で考えて人のために働くことの大切さを学ぶことができた。民泊先では、今までやったことのない牛の世話や収穫作業を行いながら、楽しい思い出づくりをすることができた。

③ 次の学習へつなぐ

総合的な学習の時間を中心にこの学習を行ってきたが、今回の学びを次の学習へつなぐような取組を各学級で続けている。振り返りの時間などにおいて、深川地区でも「ゆうゆうグリーン俵山」の方々のように地域活性化に取り組んでいる方はおられないか、もっと地域の人と関わりをもつような学習に取り組みたいなどの新たな課題を児童自身が見付けるなど、新たな学びにつながるきっかけを得ることができた。

3 体験活動の実施体制

○ 学校や受入地域の支援体制

- ① 学校の体制・・・教頭、教諭4名（5年担任3名 特別支援学級担任1名） 計5名
- ② 受入地域における体制・・・NPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」スタッフ

○ 配慮事項

- ① 保護者の児童カードをもとに健康面や支援を要することなどを事前に民泊先に伝えた。
- ② ゆうゆうグリーン俵山の方と何度も事前協議し、安全面について確認をとった。
- ③ 障害のある児童や支援を要する児童への対応は、事前にゆうゆうグリーン俵山の方々を通して受入家庭に連絡を行い、十分理解していただいた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- ① 体験活動を行う前に、5月から児童による調べ学習を行った。学んだことをカードにまとめたり話し合ったりし、振り返りを行った。事前に活動のイメージをしっかりとせたことは、自分自身や班のめあてを立てやすかった。また、しおりを活用して自己評価活動も細かに行った。
- ② ゆうゆうグリーン俵山の方々や民泊先の家族にお礼のお手紙を書かせ、その内容から体験活動で学んだことやこれからの生活に活かしたい思いを評価した。
- ③ 事前指導をしっかりと行ったので、体験活動では、児童の自主的な活動となるように、そばで見守り、問題を解決させるようにした。
- ④ 人との関わりがテーマであるので、事前に俵山の方々にインタビューする内容を考え実際に行うことで、関わりがしっかりとてたかを振り返るようにした。

5 活動の成果と課題

○ 成果

事前指導での児童の振り返りでは、いろいろな体験活動を楽しみにしており、人との関わりについて学んでいく思いはあまりなかったように思われる。しかし、NPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」の西本達夫さんにゲスト・ティーチャーで授業にきていただき、俵山への思いを児童に話していただいたことで、この学習に対する学びが深まっていった。地域活性化のために俵山の方々がいろいろなアイデアで活動され笑顔で元気ががんばっている様子を知ったA児は、「俵山の人にもっとかかわっていろいろなことを聞いてみたい。」と振り返りに書いていた。また、西本さんにボランティアの意義を教えてもらったB児は、「民泊の方々にお世話になるのでしっかりお手伝いしたい。」と書いていた。地域のために一生懸命になって活動される方の思いを聞く時間を確保したことは、大きな価値があったといえる。

1泊しかなかった民泊であるが、次の日の朝の児童の顔が笑顔できらきりと輝いていた。楽しく充実した時間を過ごしたことが表情に出ていた。家庭から離れて知らない他の家庭に1泊するという体験は、児童にとってとても貴重であった。収穫作業や袋詰め、牛のお世話、赤ちゃんをあやすことなど、ほとんどの児童にとって初めての体験が多くあった。野菜嫌いの児童が、サラダ作りを手伝い「おいしい。おいしい。」と言って民泊先で食べているなど、普段はなかなかできていないことができることは自信にもつながっているであろう。

○ 課題

① 同じ地域（長門市）での民泊について

当初、民泊の受入先がなかなか決まらず、宿泊施設での受入になる児童がでる可能性があることを伝えられた。しかし、ゆうゆうグリーン俵山の方々のご尽力により、すべての児童が民泊することができた。同じ地域だと受入が難しいという課題が残った。

② 体験活動の内容について

1日目が雨になり、1日中体育館の中での活動となった。児童は、外での体験活動（オリエンテーリング）を楽しみにしていたので残念そうであった。2日目の最後の活動が農業体験となり、児童は、なかなか自分で考えて進んで活動できなかった。人数の多さから活動も難しく何カ所かに分かれて行う民泊でもよかったのではないか。また、体験活動をすべて任せるのではなく、学校側も参画して共に指導していくようにすることができるとよい。

③ 継続して取り組みたい活動ではあるが、学校の教育活動の中での位置付けが難しい。